本太中だより

令和８年１０月２９日　第７号

さいたま市立本太中学校
０４８（８８６）４３０５
http://motobuto-j.saitama-city.ed.jp
E-mail　motobuto-j@saitama-city.ed.jp

Think globally, Act locally.
広い世界を見つめ、足元から行動する

校　長　田中　一秀

校庭の木々も少しずつ色づき始め、秋の深まりを感じる季節となりました。鮮やかに色づく葉もあれば、ゆっくりと変化する葉もあります。しかし、それぞれが確かな時を重ねながら冬への準備を進めています。この 10 月も、新人戦や駅伝競走大会、そして明日に控えた合唱コンクールなど、さまざまな場面で生徒たちの成長を感じることができました。子どもたちもまた、一人ひとり異なる歩みの中で、着実に成長を重ねています。

さて、先日、元陸上競技選手の為末大さんからお話を伺う機会がありました。その中で特に印象に残ったのは、「スポーツの世界では、多くの競技で基本的なルールが長く変わらないため、目指すべき選手像が比較的明確である。一方で、これからの社会は変化が激しく、将来の姿を見通すことが難しい。だからこそ、既存の正解を覚えるだけではなく、自ら問いを立て、多様な人々と協働しながら新たな価値を生み出していく力が求められる。」というものでした。

Think globally, Act locally. 直訳すると「地球規模で考え、地域から行動する」という意味になります。私は、この言葉こそが変化の激しい時代を生きる子どもたちに必要な姿勢を端的に表しているように思います。

為末さんの言葉を借りれば、私たちを取り巻く社会は、かつてない速度で変化しています。技術革新は著しく、価値観は多様化し、子どもたちが大人になる頃には、現在まだ存在していない仕事や社会の仕組みが当たり前になっているかもしれません。そのような時代にあっては、確かな知識や技能を身に付けることはもちろん大切です。しかし、それだけでは解決できない課題が増えていくことも事実です。自分とは何者なのか、自分は何を大切にしたいのかを問い続け、多様な人々との関わりの中で自己を形成していく力が、これまで以上に求められていると考えています。

先日、さいたま市立中学校等国際交流事業でニュージーランドに派遣された生徒による報告会を行いました。発表を聞いていると、生徒たちは英語によるコミュニケーションだけでなく、多様な考え方や生き方に触れ、多くの学びを得たことがよく伝わってきました。異文化との出会いは、自分たちの日常を見つめ直し、新たな気付きを得る貴重な機会となっています。私も 10 年ほど前、アメリカの大学で研修する機会を得ました。学校教育について学ぶ中で、世界には多様な価値観があり、正解は一つではないことを実感しました。異なる背景をもつ人々との対話は、自分の考えを広げ、新しい視点を与えてくれます。この経験は、今でも私自身の教育観の土台となっています。

一方で、本校の生徒たちは地域社会の一員として積極的に行動しています。地域のお祭りや各種行事でのボランティア活動には、多くの生徒が参加しています。地域の方々との関わりを通して、生徒たちは自分たちも地域社会を支える一員であることを学んでいます。



Think globally, Act locally. 広い世界に目を向け、多様な価値観に学びながら、自分たちの地域や学校、目の前の課題に誠実に向き合う。その一歩一歩の積み重ねこそが、よりよい未来を切り拓く力になるのです。

これからも生徒たちが世界とつながりながら地域に貢献し、一人ひとりが未来の創り手として成長できるよう、地域の皆様とともに教育活動の充実に努めてまいります。